

## 第5回行政改革推進委員会 会議要約

- 日 時 平成25年8月30日(金) 午後2時00分～午後4時30分
- 会 場 村上市役所 5階 第5会議室
- 出席者 行政改革推進委員会委員 9名  
総務課参事、人事管理室員3名

(午後2:00 開会)

- 1 開 会
- 2 会長挨拶

会長

時間になりましたので、ただいまから第5回行政改革推進委員会を開催させていただきます。

本日は、選定した4事務事業を前回の担当課説明を受け、各委員がそれぞれ評価したものを事務局が集約しております。それを今回と次回の2回の委員会で協議を行い、委員会としての評価をいたします。

事前に事務局から集約したものを配付されていますが、この場で個々の評価項目を議論しますと時間が非常にかかり、まとめきれない部分が出てきますので、まず、この委員会としては事務事業の「今後の方針」を協議していただきたいと考えております。

それでは事務局から配付された資料について説明をお願いいたします。

「各事務事業の評価の進め方について【資料No.1-1】」について事務局が説明。

### 3 議 事

#### (1) 行政評価制度の実施(試行)

##### ① 新エネルギー推進経費

会長

この事業の方向性については大半が「継続」となっており、「拡充」が3名です。ただ、1名「再構築」となっております。

私の考えとしては事業が始まって2年目でありますので効果・ニーズがまだ不透明なものですが、社会的には市民に必要性をPRし、推進していかなければならないと考えて「継続」といたしました。

委員

私は、電力についてはいろいろな考えがありますが、この事業は薪・木質バイオマスストーブ設備の推進も行っており、山の間伐材有効利用の観点から、個人に対してその利用をできる行程を作っていくことによって、この事業だけではなく林業事業等いろいろな事業に波及していくことが考えられます。

そのことを踏まえ、長い目でこの事業を見ていくことが必要と考え「継続」といたしました。

委員

エネルギーに対しては、私もこの先の生活等を考えれば一步踏み出した対策が必要だと思えます。そして一步踏み込んだこの事業は継続して行っていくべきと思ひ「継続」としました。

委員

私の家では太陽光発電を設置して6年程になります。自宅で使用した電力以外は売電しています。ただ、雪国ですのでメンテナンス・リスクは多くあります。しかし、それを差し引いても電気料は安くなり、その他売電での利益も発生します。このことを踏まえ、効果等のデータの開示・公表してPRしていくべきということを意見に記載し、そして実体験に基づき「拡充」とさせていただきました。

委員

私も「拡充」とさせていただきました。集約表に記載されているとおりですが、行政が新エネルギーを推進していくという立場を出し、実施するのは民間・個人としていけば、民間・個人が育っていくと思われます。そういう意味でも新エネルギーでの市の受給率も目標設定とし、市としてどの程度を目指すのかが必要だと考えます。

あと、森林の問題が非常に気になります。補助金で植林し、補助金で間伐しています。ただ、補助金で育った木の間伐がコストの面で捨てざるを得ない状況です。

民間育成・間伐材有効利用を考えた事業拡充をしていただきたい。

委員

木質ペレットを製造する事業所はあるのでしょうか。

委員

まだ市にはありません。本来は山北地区、朝日地区に生産・供給できる施設があればいいと思ひます。

委員

私も「拡充」です。木の切り捨て・切り倒しは非常にもったいないことです。これを再利用することによりひとつの産業ができる可能性があります。太陽光発電と一緒に考えるといろいろな議論が発生すると思ひますが、ストーブの部分だけを見れば拡充したほうがいいと思ひます。

<結論>

取り組み一つ一つで分けるとそれぞれ「拡充」・「継続」に分かれるが、まだ2年目であり、市民ニーズも見えてこないで「継続」とする。

評価項目	点数
必要性（ニーズ）	4
必要性（公共性）	4
有効性（達成度）	4
有効性（貢献度）	3
効 率 性	4

### ③ プレミアム商品券地域活性化事業経費

会長

それではプレミアム商品券地域活性化事業経費を評価します。

〇〇委員のみ「拡充」ですがその他は「再構築」・「廃止」の方向です。

〇〇委員は消費者の視点で評価したと思われます。

私は、この事業の目的は消費拡大による商工業の振興ですので、この事業では効果がないと結論し、「廃止」としました。

委員

例えると1,000円のもの990円で売らなければいけない、この事業は商店にとっては全くメリットがない事業と思います。

市が補助金を出してまで推進しているのか分からない。

会長

おそらく消費拡大を狙った事業だったと思います。消費者は1割得になるのでその分余計に購入し、消費拡大につながるということで始めた事業だと思います。

ただ、前回は話をさせていただきましたが、1割得をしたからといってその分余計なものを買おうとは思わないです。

よって、私は税金を使ってまでやるほどの事業とは思わないので「廃止」としました。

委員

私は「再構築」としましたが基本的には「縮小に向けた再構築」です。

理由は、市民にはメリットがありますが、税金を使う視点になると一部の市民への還元でしかない。

もう一つは、事業の趣旨の目的と受益者が一致していないというのが問題です。

そして、事務事業評価の実施にあたっては予算の再配分ということも狙いだと思われまますので、他事業が拡充・継続を行う場合は、評価事業の中で必要の薄い事業を縮小・廃止をすることが必要と考え、4事業中一番必要性の薄いこの事業を「縮小・再構築」し、他事業にその予算を充てることを考えました。

事務局

プレミアム商品券事業としての市の形態としては、あくまで商工会議所、商工会が実施する商品券事業に対して補助金を出しています。

補助金の内訳としてプレミアム分と印刷製本費分を実績で補助しています。

事業の関わりとして商工会議所、商工会が開催する会議に職員は参加していますが、あくまで、この事業は商工会議所等が主催するものに対して補助を出しているだけの事業です。

個人的な考えになりますが、例えば取扱い商店が支払う換金手数料も補助対象に検討していけば商店に負担のないような「再構築」も考えていけるのではないのでしょうか。

会長

消費者、商店の需要がどれだけあるのかアンケート等で意見を聞く必要があると考えています。

どれだけ消費購買があるのか商工会議所等はつかんでいないと思います。

委員

先ほど委員が言われた意見は商工会議所等に届いているのでしょうか。

委員

私の地区の商工会には、総会でその意見が出て当該地区では扱わない結論が出ました。

村上市としても平成25年度当初はこの補助金は計上されていなかったと思います。それが全商工会の要望という形で事業が計上されました。

効果が見込めない不透明なものに対して要望があるだけで、予算計上されるのか疑問です。

委員

商工会議所等としても、商店がこの事業を歓迎していないことは重々分かっているけれども継続するということは、消費者をこの村上市につなぎ止めたい、他市ではなく村上市で商品を購入していただきたいということで継続していると思います。

委員

先ほど事務局の私見は的を得たものだと思います。

補助金ですので券の1割だけではなく印刷費、換金手数料を補助したほうがいいと思います。

委員

一割お得感で喜んで購入している人がいますが、もとは税金です。ただ単に税金の還付を受けただけです。それも現金に余裕のある人たちだけです。本当に困っている人には行き渡らない事業です。

どうも取り組み方がおかしいと思います。

委員

〇〇地区には元々、1割上乘せした券の発行事業を組合を設立して実施していましたが、プレミアム商品券事業が始まって解散してしまいました。この事業を行うことにより地元商店はかえって打撃を受めました。

委員

事務局にお伺いします。

本当は、ニーズをもっと低くつけたかったが、評価基準で判断すると市民にとってはうれしい事業です。高くなってしまいました。

もう少し項目を考えた方がいいと思います。

会長

事業ごとに受益者及び目的が違っているので目的、受益者に合わせた評価基準としたほうがいいと思います。

委員

この券を買ったことによって、その分は他市ではなく地元商店で商品を購入しなければいけないので、地元商店への還元ということでは、ある程度この事業の役割は果たしていると思います。

地元で購入する人たちが少なくなったことを受けた事業であると考えれば、この事業もある程度は必要だと思います。その部分は評価されてもいいと思います。

ただし、商店への負担が大きいので、その部分は「再構築」を考えなければいけないと思います。

委員

私の知人は、商品券で日常必要な食品しか買わず、ほかのものは現金で他市の大型店で購入しています。地元商店の売り上げには貢献していないのが現状です。

委員

地域により券の購買意識に違いがあります。そういうことも考えた事業に「拡充」していただきたいと思います。

委員

自分なりにリサーチした結果、事業自体知らなかったり、券を買っても使う商店がなかったり等、地区により温度差があります。そう考えると村上地区の商店振興のみの事業と思われます。

村上地区だけの衰退した商工の活性化のために行政がやることは疑問を感じます。

委員

〇〇委員にお伺いします。

先ほど地区で発行した事業では効果があったのでしょうか。

効果があれば、地区を限定とした券の発行を考えればいいのではないのでしょうか。

委員

地元商店でしか使えない商品券ですので効果はありました。

この事業は、地元商店で食料品等の日用品を券で購入し、その分他の物を現金で他市の大型店で購入されており、地元商店には全く効果がありません。

委員

市が工夫して思い切ったことを考えた方がいいと思います。たとえば商品券で購入するに限り、村上産の薪やペレットを半額になる等すれば、ストーブ設置の促進にもなり、新エネルギー推進事業にも波及する等、思いきったことを打ち出した方がいいと思います。

<結論>

目的と受益者が違っており、税金の有効的な使い方ではないので、もう一度原点に戻り今までの事業がどれだけ効果があったのか検証し、小売店の状況をよく調査して**廃止も視野に「再構築」**していただきたい。商店の現状を考えると、換金手数料だけでも廃止していただきたい。

評価項目	点数
必要性（ニーズ）	3
必要性（公共性）	3
有効性（達成度）	3
有効性（貢献度）	3
効 率 性	3

## ② 一時預かり事業経費

会長

〇〇委員だけが「廃止」となっております。その他「拡充」、「継続」です。集約表に理由がありませんでしたので「廃止」の理由をお尋ねします。

委員

事業の認識不足により間違った評価をしていました。「継続」に訂正します。

会長

子供が病気したときには、必ず父母が休まなければいけません。民間事業所ではなかなかすぐに休むことができないところが多々あります。

そういうことを踏まえ、病児・病後児の対応ができる施設整備、事業とするように「拡充」としました。

委員

私は「継続」としました。現状で一時預かりがどれだけ必要なのかわかりません。保育園に通っていない子供が対象だということで、少子化でありますので対象者は少ないと思います。現状のままで賄える事業だと思います。

委員

会長がおっしゃったとおり、病児・病後児保育は大事だと思います。生産ラインの従事者にとっては子供が急に病気になったので迎えに来てくださいと言ってもすぐには対応できません。

そういう保育環境が充実したところは人口定着化の要因にもなると思います。

例えば小児科と連携して病院の一角に設置する等、病児・病後児保育の事業を進めていただきたいと思っています。まさに「拡充」すべだと思っています。

委員

私も「拡充」です。効率性等にも記載しましたが、一時預かり事業の実施数は目標を達成しておりいいと思いますが、通常保育より保育士の心理的負担が大きい事業ですので、幼児保育の高い専門性をもった保育士を育成し対応していくことが必要だと思います。

委員

柔軟性が大切だと思います。フランスのような確立したファミリーサポート・センター事業と連携し、地域の方々を巻き込んだ「拡充」していただきたいと思っています。

### <結論>

病児・病後児に対応した保育環境は人口定着化の要因にもなることから小児科と連携等、病児、病後児に対応した事業に「拡充」していただきたい。また、ファミリーサポート・センター事業とよく連携を図っていただきたい。

そして、通常保育より保育士の心理的負担が大きい事業なので、幼児保育の高い専門性をもった保育士を育成し、事業を行っていただきたい。

評価項目	点数
必要性（ニーズ）	5
必要性（公共性）	4
有効性（達成度）	4
有効性（貢献度）	4
効 率 性	4

#### ④ 協働のまちづくり推進事業経費

会長

それでは最後に協働のまちづくり推進事業経費です。

私の意見としては、協議会が設立され2年目でありますので、様子を見るということで「継続」としました。

委員

私の評価はオール3としました。2年目に入って何が変わったかという、協議会に中で人の顔がよく見えてきているということと、行政の主導によるところが大きいと思いますが、行政のお膳立ての中に役員がいて、いまいち市民の沸き上がりが感じないのでオール3としました。

行政が主導しすぎて協議会員としては頼まれごとのように感じてしまい、活動に少し活気がなくなってきました。

方向性としては「継続」とし、継続していくことによって何か見出せるものがあると思います。

委員

事業の落とし所が見えてこない。市長が代わった時、層々たるメンバーでおこなった無駄遣いになるのが怖いです。

委員

そういう話はよく聞きます。この事業はいつ終わるのか。役員は来年辞められるのか等、行政は理想を見て下を見ていないように感じます。

委員

そもそも役員は無償のボランティアで行っていることが問題だと思います。

人間には欲がありますので、何か楽しみがあればいくらかでも参加しますが、無償のボランティアだから離れていってしまいます。

この事業はかつて青年会、婦人会等で担っていた事業も協議会にやらせようとしています。

なぜ、その当時、青年会、婦人会が活発でまとまっていたかという、当時は旅行等、お酒を飲むのに大手を振って行くことがなかなか難しい時代でした。それを婦人会で堂々と旅行・飲酒することができる楽しみがあったから活発にまとまっていたと思います。

今の時代、そういう楽しみが全然ありません。協働のまちづくりに参加したからといって何も無く無償のボランティアでしかありません。何か仕掛けをしないと皆さんはついてこないと思います。

委員

私の分からないところは、生涯学習推進センターがありますが、そこに公民館があり、各地区にも公民館、公民館長がいます。この事業は自治振興課で行っており、ゴチャゴチャになっています。

各地区の公民館長は、まちづくり協議会のどういう位置にいるのか等、組織としてゴチャゴチャになっており一体感がないように感じられます。

委員

公民館活動と別れている意味が全く分かりません。

委員

この事業に伴ってと思いますが、公民館は会議だけがなくて実がなくなってきました。

委員

穿った考えを言いますと、各地域、市民はどういうことに困っているのかが分からないまま、政策ありきで降って湧いたように事業が始まってしまったように感じます。

委員

趣味の多様化により昔のように集まってお酒を飲む等の楽しみがなくなっているので、地域をまとめる・地域を力強くするためにはどうすべきか、もう少し考えた方がいいと思います。

この事業の理念は非常に素晴らしいと思いますが、取り組み方をもう少し考えたほうが良いと思います。

自分のところの協議会も先ほどの〇〇委員と同様に任期切れ待ちで、再任を望まない役員が非常に多いです。

委員

確かに任期を終えることだけを考えて、将来の村上市をどうすべきかを考えている役員は非常に少ないと思います。

委員

協議会を見ていると一部の人は、市から自分たちに予算がついて、ちょっと偉くなった気分で実施しているようにも見受けられます。それは一時的な金をばらまくだけであり、ばらまくことも実は市の下請けみたいなものであり、勘違いをしているように見えます。

これに気づいたときに、役員のなり手がいなくなるように思われます。

本当に協議会の役員になるメリットが全く見受けられません。

委員

楽しみがないですね。昔は、集うということの楽しみがありましたが、集うということに楽しみが全くなくなってきました。昔は、集うということの楽しみがありましたが、集うということに楽しみが全くなくなってきました。昔は、集うということの楽しみがありましたが、集うということに楽しみが全くなくなってきました。

私も青年団をやっていましたが、その楽しみというのは人との繋がりでした。地域を通り越してこの青年団以外では会えない人々と交流することの楽しみがありました。

協働のまちづくりも地域で固まるのではなく、地域外との交流もないとうまくいかないと思います。



#### 委員

同意見であります。行政・民が対等となつて行うこと謳いながら、行政は他の担当ときちんとした連絡を取り合っているのでしょうか。情報を共有しているのでしょうか。

例えば事業として連携できる生涯学習課と自治振興課は情報を共有しているのでしょうか。情報等共有しているように感じられません。

#### 総務課参事

関連する事業に対しては密に連絡・情報共有を行っているつもりですが、委員が感じられていることを当該課長に意見としてお伝えいたし、改善を図ります。

#### 委員

地域によってだいぶ違いがあると思いますが、私の感じる面でお話しさせていただきますと、私の居住している集落は、世帯数が43軒で非常に少ない集落で高齢化も進んでおり、消防団員が2名しかいません。もし災害があったときに本当にどうすればいいのか不安になります。

いずれ皆さんの集落でも直面する問題だと思います。

公民館、青年会、婦人会に代わるもの、集落の活性化も大切ですが、違う視点で行政もお金がない、集落も高齢化が進んでいる中、将来をどういう風に市を運営していくのかの切り口は、協働のまちづくりだと思っています。そういう意味でも「拡充」していかなければならない事業だと思います。

そういうことを市民に分かりやすく伝えることが必要だと思います。

#### 委員

協働のまちづくりを来年も継続するようでしたら集落のリーダーの育成が急務です。集落が発展することにより市が発展します。リーダーの育成を望みます。

#### 委員

〇〇委員の意見は「拡充」であり、協働のまちづくりに深く関わっていますので意見を伺いたと思います。

#### 委員

私の集落は、市中心から非常に離れており、行政の恩恵はあまり受けられないところにあります。

そこで自分たちの住んでいるところは自分たちでどうにかしようと活動しています。

そういう部分では、協働のまちづくりが非常に大切だと思い、「拡充」とさせていただきました。

民間が主体となつていきながら、時に行政に助け船を出していただくことが必要なことだと思っています。

私たちの協議会は経済面を含めた地域づくりを進めており、自分たちの地域おこしのために経済的な部分も考えて活動しています。

地域おこし・地域のことは、行政が考えることではなく、住んでいるみなさんが考えることだと思っていますのでこの事業は必要だと思います。

#### 委員

今思いついたアイデアですが、〇〇委員のところのような積極的な協議会は稀ですので、市がボランティア通貨・通帳のようなものを発行して、ボランティアに参加した分、将来自分が困ったときに、その分のボランティアが受けられる制度を構築する等、協議会参加に動機付け出来るような取り組みが

あってもいいと思います。

委員

現在、17の協議会が設立されていますが、市街地で活発な地区と農村地で閑散としている地区では考え方、やり方等に違いがあると思います。

マニュアルどおりに市街地と同様に活動を行うのではなく、地域性を考え、その地域の問題点を話し合いその解決に向けた活動を行うようにして行ってもらいたい。

委員

小学校単位で区切ったことが問題だったのではないのでしょうか。

小学校区内でも集落により地域性が違いますので地域性に融通を利かせた活動を考えてもらいたい。

委員

現在の各協議会の予算配分に疑問を感じています。

これまで行っていた事業にお金を出すのではなく、新たな取り組みに対してお金を出すほうがいいと思います。

委員

6次産業化など、収益事業を目指すものへの補助も可能にしてもらいたい。

<結論>

公民館事業との切り分けをはっきりし、その地域が直面している問題点等をきちんと把握し、協働のまちづくり協議会で行える本当の切り口を探りながら単に予算を増やすのではなく事業を「拡充」していただきたい。

そして、積極的に情報を公開して、市民が市政に参加しやすい環境を作ってもらいたい。

また、協議会役員の担い手の促進のため、市民が積極的に参加できるような制度（例：ボランティア通貨制度）を構築していただきたい。

評価項目	点数
必要性（ニーズ）	4
必要性（公共性）	4
有効性（達成度）	4
有効性（貢献度）	4
効率性	4

4 その他

事務局

今回で4事業の評価は終わりましたので、次回から制度構築に向けた提言を協議していただくことを予定しております。

5 次回の日程について

平成25年9月26日（木） PM2：00～

6 閉会

会長

皆さん長時間お疲れ様でした。  
次回委員会もよろしくお願いします。  
ありがとうございました。

(午後4：30 閉会)

以上、第5回行政改革推進委員会会議要約の内容が、正確であることを証明するため、ここに署名する。

平成25年 9月19日

会 長 高 橋 武 志 印